

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170503817		
法人名	有限会社ウェル・ビーイング		
事業所名	とらいあんぐる 太陽		
所在地	札幌市白石区菊水元町5条2丁目2番18号		
自己評価作成日	平成28年10月15日	評価結果市町村受理日	平成28年12月26日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kan=true&JigrosyoCd=0170503817-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成28年11月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ケア理念・基本理念を共有し、入居者様の意志や思いに寄り添ったサービスの提供を心掛けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム とらいあんぐる太陽」はバス停から近い、高層マンションの1階にある1ユニットのホームで、周囲にはスーパーやレストラン等の飲食店がある。1階のフロアを改装した共用空間はトイレも広く、車椅子使用での暮らしが容易にできる造りになっている。平成18年に開設した当初は、地域と共に暮らす理念の基に、食事作りの参加や周囲の利便性を活かして活発に行動していたが、10年が経過する中で徐々に介護度が重くなり、個別の状態に合わせて安全な暮らしが出来るように支援している。利用者は町内会の運動会を見学したり、街路にある花壇の花植えに参加している。「敬老の日」週間には同法人が運営する児童デイサービスの子供達が来訪して交流している。運営推進会議を避難訓練や行事と同日にを行う工夫で会議に家族の参加が増えている。家族の来訪時にはケア内容を話し合い可能な限り意向に沿って対応している。計画作成担当者を中心に担当職員がモニタリングを行い、計画に沿って個別ケアに取り組んでいる。管理者は職員に外部研修への参加を勧めたり、ユニット会議で内部研修を行う事でケアに活かせるように配慮している。個人の体力に合わせて暖かい時期には散歩や外気浴を多くし、年に1・2回は全員で外出行事に出かけている。知人の来訪や家族の協力で旅行に出かけたり、歌の好きな利用者の希望に沿って、カラオケボックスに出かける等、趣味の継続や馴染みの関係を大切に支えている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられる (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を廊下、和室に掲示し、理念を共有して実践に繋げている。	事業所独自の基本理念の他に、ケア理念には「地域と共に」との文言が含まれている。申し送り時に唱和し、介護計画を見直す際にも理念に触れている。職員は外部研修で理念を学び、新鮮な目で地域との関わりを意識している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の行事、花植え、ゴミ拾い、運動会等に積極的に参加し、交流している。	運動会を見学し、競技に参加している職員を応援している。「敬老の日」週間に、同法人の児童デイサービスの子供達が来訪して踊り等を披露し、手作りのプレゼントもある。運営推進会議後に庭で「焼肉会」を行い、委員や家族と交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通して認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ユニット会議で話し合い、サービス向上に活かしている。	2ヵ月毎に運営推進会議を開催し、避難訓練や行事と同日の会議に家族の参加が多い。普段の様子を収録したDVDを鑑賞しながら報告している。防災や行事等の報告が中心で、年間テーマは特に設定していない。今後ミニ勉強会も検討している。	各会議案内にメインとなるテーマを記載して送り、参加できない家族の意見も得て会議の話題にし、情報や意見交換の中で家族に役立つような議事録の充実を期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者とは面談の時や各手続きで区役所を訪問し協力関係を築くように取り組んでいる。	市への書類提出等は本部で行い、管理者は区役所に出かけて介護認定の手続きで担当者に確認している。生活保護の担当者とは主に電話で連絡し、訪問の際には情報を提供している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修会に積極的に参加し理解を深めると共に、身体拘束禁止行為11項目について掲示意識づけをしている。	身体拘束の外部研修に参加した職員の報告で内容を共有し、身体拘束禁止行為の11項目についても理解している。現在2名が転倒防止でベッド柵を使用しており、毎月経過記録に家族のサインを得ている。バス通りに面しており安全面から玄関は鍵をかけているが、内側から開けることは出来る。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修に積極的に参加している。研修報告はユニット会議で話し合い防止に努めている。		

とらいあんぐる太陽

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修に参加し、ユニット会議で研修内容を報告して職員同士で情報を共有している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者及び計画作成担当者や介護主任といった一定の立場の職員2名以上の立ち合いで十分な説明を行い、理解、納得を図っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム内に苦情受付担当者を明記し、相談受付ボックスを設置している。	毎月、通信の個別欄に担当職員が様子を伝えて家族に送り、来訪時には意見や介護計画の意向を聞いている。意見等は「連絡ノート」に記載しているが、今後は「気付きノート」を積極的に活用し、更に個別の些細な想いを把握する意向である。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議等で職員の意見を聞く機会を設け、その意見を反映させている。	毎月ユニット会議で、ケアの対応、業務、研修の報告等で意見を交換している。本部から必要な備品の確認があり、職員で話し合い乾燥機を購入している。新規採用時には話し合いの場を多く設け、年に1回は職員と個人面談を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	内部研修や個別相談を行い、職員一人ひとりの勤務上の困難を把握し、アドバイス等することによってそれをなくすようにし、職場環境条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勤務時間内に内部研修を設定したり、外部研修に積極的に参加を促し、働きながらトレーニングしていくことを進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修に参加することで、同業者と交流する機会を作り、そこで得た知識を職場に還元することでサービスの質の向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様の様々な思いをしっかりと傾聴し、日ごろから積極的に声掛けを行う事で信頼関係の構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	管理者、計画作成担当者、もしくは職員がご家族様のお話を伺い、信頼して頂けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様、ご家族様からの聞き取り、ホーム入居前のサービス利用状況など総合的に見極めて支援を開始している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事を一緒に食べたり、活動を一緒に行う事で暮らしを共にする者同士の関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人様の状況をご家族様に報告し、共に、ご本人様を支えていく関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人、知人の面会もあり、馴染みの人々との関係が途切れないよう、支援している。	華道の生徒がグループで定期的に来訪して居室で過ごしている。汽車が好きだった方は外泊中に家族と旅行に出かけたり、また歌が好きな方の希望で、職員が同行して殆ど全員でカラオケボックスに出かけて歌を楽しんでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様の性格や認知症の進行具合を把握し、穏やかに過ごせるよう支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	連絡が来た時は、経過を聞く等相談に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	相談に応じている。困難な場合はユニット会議等行い、話し合いを行っている。	会話や表情を見て、確認しながら思いを把握している。年に2回は課題分析のアセスメント表を更新している。生活歴等は家族の情報で記録しているが、情報の蓄積が十分とは言えない。	入居時のセンター方式のシートを活用し、趣味や嗜好の変化なども追記しながら、書面でも現在の思いを共有できるように期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様、ご家族様に協力を頂いたうえで、これまでの生活や暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録、申し送りなどスタッフ間で情報を共有し、現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスを行い、スタッフ間で話し合い、ご家族様の意見を聞きながら計画作成をしている。	担当職員のモニタリングを基に会議で話し合い、3か月ごとに介護計画を作成している。本人に内容を説明する事もある。目標に沿ってサービス実施状況を記録しているが、今後は「ケアプラン実施表」を活用し普段と違う変化の記載も考えている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人別に介護記録を作成して申し送りで情報を共有し、見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様、ご家族様の状況を把握し、行事などを取り入れ柔軟なサービスに取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内の運動会がある際は入居者様に見学して頂き、年3回の防災訓練に地域の方にも参加して頂いている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族様に説明、同意を頂いたうえで週に1度往診を行っている。	近くにある協力医療機関の訪問診療が週1回あり、夜間の対応も可能になっている。専門的な他科受診は家族が対応しているが、状況によって事業所で同行する事もある。週1回歯科の訪問診療もあり、往診・受診内容を個別に記録している。	

とらいあんぐる太陽

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一度訪問看護師に現状を伝えて相談し、健康管理を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の相談員やりハビリの先生方と情報交換、相談を行い、早期退院に取り組んでいる。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療機関、ご家族様と話し合いながら、支援に取り組んでいる。	「重度化した場合の対応指針」に看取り指針を明記し、食事が摂れず継続的な点滴の対応は難しいことも利用開始時に説明している。重度化し状態が変わった時には関係者で話し合い、医療行為や疼痛が伴う場合は入院方向になっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当等の研修へ参加、また緊急対応について話し合っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に3回避難訓練を行い、地域の方にも参加して頂き、協力体制を築いている。	運営推進会議と同日に年4回の避難訓練を行い、1回は消防署の立会いで建物全体で実施し、委員や住民は見学で参加している。地震を含めて3回の自主訓練も行き、今後は水害時の対策を予定している。職員の救急救命訓練は随時進めている。	地震を想定した訓練の際に、事業所内の危険箇所やケア別の対応について職員間で確認し、水害対策のマニュアル作成時に、地震についても追記等で整備することを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	誇りやプライバシーを損なわぬ様、言動に注意して日々取り組んでいる。	接遇研修を実施すると共に、利用者を人生の先輩として敬うための指針として、各職員が個別目標を掲げている。申し送りはイニシャルで行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人様の希望を伺い、自己決定できるように意見を確認している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様優先にし、希望にそえる様支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	必要な衣類はご家族様に伝え購入して頂き、訪問理美容の利用も行っている。		

とらいあんぐる太陽

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	歯の悪い方、箸が上手に使えない方にも美味しく召し上がって頂けるよう調理の仕方を工夫している。盛り付けなども出来る方には頂き、出前寿司や外出などの特別食も取り入れている。	利用者の好みに合わせて献立の調理法を変えたり、誕生日は赤飯やちらし寿司など本人の好きな献立でお祝いしている。おやつレクで、大型ショッピングセンターにデザートを食べに出かけている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	飲食物は全てチェックしている。特に水分確保のためには個人の嗜好にあった飲み物を用意したり、食べやすいゼリーを活用している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	見守りや介助など個人の状況に応じた支援をしている。義歯の洗浄剤の使用も行い、定期的に訪問歯科の受診も行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各自の排泄パターンにそったトイレ誘導を行い、トイレ内での排泄が出来るようさりげなく支援している。	全員の排泄を記録して個々に応じた声かけやトイレ誘導を行い、失敗を少なくして気持ちよく過ごせるように支援している。立位が困難な場合は、身体への負担軽減に配慮しておむつ交換などで対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分をすすめ、時には腹部マッサージなども行っている。必要に応じ、主治医から下剤を処方してもらうこともしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	お風呂があまり好きでない方にも気持ちよく入って頂けるように、その方にあった誘いの仕方を工夫している。	楽しく入浴できるように入浴剤などを使用し、毎日、午後の時間帯に各利用者週2回の入浴を支援している。浴槽への移動が困難な場合は、体が温まるように足浴を行いながらシャワー浴で対応している。家族と温泉に出かける利用者もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方の体力や生活パターンに応じて居室で休んで頂けるよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報は個人ファイル内に収納しており、常に目を通すことが出来る。その方にあった与薬の仕方、服薬後も変化がないか確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	散歩やDVD鑑賞、簡単な手作業など各自の得意な事や好きな事を毎日の生活に取り入れている。		

とらいあんぐる太陽

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個人の体力と希望に合わせ、近くの公園へ散歩に出掛けたり、敷地内で外気欲をしたりしている。年に何度かは動物園やショッピングセンターなど遠出もしている。	暖かい季節は出来る限り外出する機会をつくり、車椅子を使用している方も交代で近隣の公園に出かけたり玄関先で外気浴をしている。円山動物園やモエレ沼公園にも出かけている。冬季は、家族と帰宅する機会などに外気に触れている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の管理はほとんどご家族様がやっているが、中にはわずかばかりではあるが、ご家族様との外出の際に金銭を受け取りご家族様の見守りのもと自由に使っている方もいる。そのまま居室内に金銭を持ってきてしまった場合は職員が回収し、ご家族様へお返し、紛失しないようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話や手紙の取次ぎをしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	エアコン、空気清浄機で健康的かつ快適に過ごせるようにしている。季節の手作りの装飾品や行事の写真などで楽しんで頂いている。	食堂には対面式の台所があり、利用者とは話をしながら食事の支度ができる造りになっている。窓から注ぐ光をカーテンで調節したり、玄関などにソファを配置して利用者が居心地よく過ごせるように配慮している。廊下には、大きな行事の写真が掲示しており、利用者の笑顔から家庭的な楽しい雰囲気が感じられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内には自席の他、ソファを配置したり座敷もあり思い思いの場所で過ごすことができる。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室の担当職員を決め、入居者様がゆっくり過ごせるようにそれぞれに合った環境作りの支援をしている。	居室には、造りつけの吊戸棚とハンガー、ベッドが準備されている。好みの寝具やタンスなどを持ち込んで落ち着いて過ごせるように工夫している。職員が撮った家族との写真、児童デイサービスの子供達からのプレゼントの小物類も飾られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、洗面台などの表示、各居室に名札の取り付けをし場所の確認が出来るよう工夫している。また、職員は入居者様各自の動きを把握出来るような位置取りをしている。		

目標達成計画

事業所名 とらいあんぐる太陽

作成日：平成 28年 12月 20日

市町村受理日：平成 28年 12月 26日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	各会議案内にメインとなるテーマを記載して送り、参加できない家族の意見も得て会議の話題にし、情報や意見交換の中で家族に役立つような議事録の充実を期待したい。	テーマの決定方法や事前通達方法を工夫し、運営推進会議に参加できないご家族様にも興味を持ってもらい意見を尋ねる。そうして収集したご家族様の意見を運営推進会議にて話し、議事録を充実させる。都度議事録を郵送し、ご家族様に閲覧してもらい役立たせる。	メインとなる運営推進会議のテーマをご家族様から意見を得て決め、1年の会議日程の案内時や都度の案内の際に書面にて通達する。面会等でご家族様が来訪された際にテーマについての意見を職員が収集し、それを会議にて問いかけ議論し、内容を議事録に記載する。議事録を郵送し、ご家族様からの反応を伺う。	1年
2	23	入居時のセンター方式のシートを活用し、趣味や嗜好の変化なども追記しながら、書面でも現在の思いを共有できるよう期待したい。	入居者様の趣味や嗜好等の入居時からの変化した現在の思いを職員間で共有する。	入居時にご家族様記入して頂いたセンター方式Bシートを活用し、変化があった時に追記する。それをアセスメントシートと一緒にファイリングし、全職員が確認できるように環境を整える。	6ヶ月
3	35	地震を想定した訓練の際に、事業所内の危険箇所やケア別の対応について職員間で確認し、水害対策のマニュアル作成時に、地震についても追記等で整備することを期待したい。	地震の際の、事業所内の危険箇所やケア別の対応について職員で確認し、その内容を現在作成中の水害対策を含めた非常災害対策計画マニュアルの地震の項目に追記する。	現在整備中の非常対策マニュアルには地震の際の事業所内の危険箇所やケア別の対応について未記入の為、ユニット会議の際にそれぞれ具体的に確認したり、意見を収集する。地震の項目のその内容について追記する。	1年
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。